

# デンソー山岳部 2008 年夏山合宿報告書



## メンバー

芦田直之(CL)、山田明(SL)、伊藤千佳子(食糧)、藤田英昭(会計)、吉田明和(装備)

## 目的

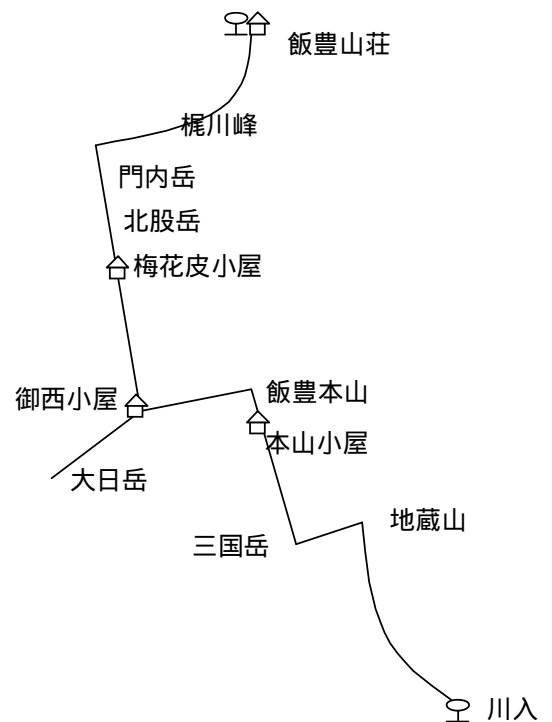
新人育成

## 山域

飯豊連峰

## 日程

- 8/9: 飯豊山荘に前夜泊
- 8/10: 梶川峰 ~ 北股岳 ~ 梅花皮(かいらぎ)小屋泊
- 8/11: 御西小屋から大日岳往復、飯豊本山 ~ 本山小屋泊
- 8/12: 三国岳 ~ 川入 ~ 芦ノ牧温泉泊
- 8/13: 観光して帰宅



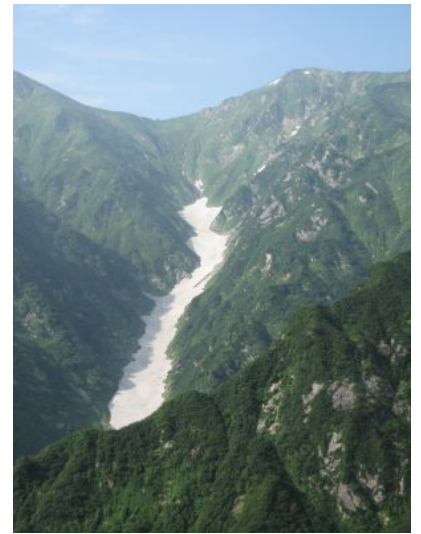
## 1日目 (8/9 晴れ)

東海道新幹線、山形新幹線、JR 米坂線を乗り継ぎ小国駅からタクシーで飯豊山荘まで移動、前夜泊。

## 2日目 (8/10 晴れ)

3:00 起床	8:40 五郎清水	13:00 ギルダの池
4:00 飯豊山荘 出発(406m)	9:50 小休止	14:15 北股岳(2024m)
5:00 小休止	10:40 梶川峰(1682m)	14:40 梅花皮小屋 着
6:10 小休止	11:50 扇ノ地紙(1889m)	
7:30 滝見場(1145m)	12:40 門内小屋	

夜明け前の4時、ヘッドランプをつけ飯豊山荘を出発した。山荘からは3つのコースがあるが、花が多くきれいと言われている梶川峰に登る。急こう配で両手を使って登るが、ペースはゆっくりなので息もさほど上がらない。500mで250mの標高を登るといふ、険しい道のりが続く。3時間半ほどして、滝見場に到着した。名の通り、滝が見える場所だ。また、北股岳と梅花皮岳、その間のコルにある梅花皮小屋(今回の宿泊場所)が遠くに見える。小屋の下方に続く雪渓が大きくてきれいだった(写真)。それと同時に、今日一日で、あそこまで歩いていかななくてはいけない、という少し重い気持ちにもなった。気を取り直して出発し、次の休憩場所である五郎清水に到着した。ここで水の補給と水浴びをして熱い体を冷やした、とても気持ちいい。五郎清水を後にししばらく進むと、梶川尾根に出た。平坦な道が続き標高1889mの扇ノ地紙に、11:50分に到着した。お昼ということもあり、太陽が雲に覆われ肌寒くなってきた。あと2時間強で宿泊小屋に着く距離まで来たので、雨が降る前に到着したいなと思った。幸い、雨が降ることもなく、宿泊する梅花皮小屋に到着し、祝杯を挙げた。(吉田記)



## 3日目 (8/11 晴れ)

3:00 起床	7:30 天狗の庭	14:30 飯豊山頂(2105m)
4:20 梅花皮小屋	8:35 御西小屋	15:05 本山小屋
5:45 烏帽子岳(2018m)	10:35 大日岳(2128m)	
6:45 御手洗の池(1856m)	12:50 御西小屋	

3:00に起床し、梅花皮小屋から外の景色を見るとまだ暗かった。少し、肌寒かった。しかし、空を見上げると満天のすばらしい無数の星々が見られた。空気が澄んでいると思った。その後、みんなで朝食を取り、梅花皮小屋を4:20に出発した。天候は快晴だった。出発して、すぐにゴロゴロした岩石の急登が続き、しばらくすると烏帽子岳への緩やかな稜線に入るとききれいなニッコウキスゲ・イワイチョウのお花畑が見られた。烏帽子岳には5:45に到着し、その後、御手洗ノ池には6:45に到着した。しばしの休憩後、出発した。天狗岳へは緩やかな稜線が続くが道はゴロゴロした石の道が続き、けっして歩きやすい道とは言えなかった。途中、雪渓をトラバースし天狗の庭に7:30に到着した。その後は緩やかな稜線が続き、途中にはハクサンシャジン・イワイチョウのきれいなお花畑が見られた。御西小屋へは8:35に到着した。休憩後、ザックを御西小屋に置き、大日岳へ往復すること(必要な食料と水は持参)にした。ザックを背負っていないのでとても身軽だったので、とても速く歩けた。しかし、大日岳頂上手前になると急登が続ききつかった。その

後、頂上に 10:35 に到着した。飯豊連峰の最高峰である頂上からは遠方を望むと出発した梅花皮小屋、北股岳や梶川尾根の景色が見え 360° の大パノラマで抜群の眺望であった。その後、全員で記念撮影(写真)後御西小屋へ引き返し、12:50 に出発した。緩やかな稜線をしばらく歩くと途中、所々で雪渓が見られた。飯豊山山頂へは 14:30 に到着した(冒頭の写真)。山頂からガスがかかっており、周りの景色はあまり見渡せなかった。その後、山頂からゴロゴロした岩石を下り、しばらく歩くと本日の最終目的地である、本山小屋に 15:05 に到着した。到着後、小屋でビールが売っていた。350ml のビールが 1 本 1000 円と高かったがのどが渇いており、飲みたかったので買った。とてもおいしかった。その後、小屋のおじさんが私達にじゃがいもをくれた。とてもうれしかった。早速、じゃがいもをふかし塩をふりかけ食べた。とてもおいしかった。18:00 ごろに夕食を済ませ、20:00 に就寝した。(藤田記)



#### 4 日目 (8/12 晴れ)

5:35 本山小屋(2102m)	9:12-25 三国小屋(1644m)	12:45-13:00 御沢小屋跡(580m)
6:35 小休止	9:35-45 剣ヶ峰の岩稜	13:50-14:30 川入バス停(480m)
7:20 切合小屋(1860m)	10:00 小休止	
8:25 小休止	11:35 上十五里(1040m)	

本山小屋の主人の意向で 4 時以前の起床禁止とのことで、小屋にいる 20 余人全員が 4 時に起床した。朝食を済ませ、身支度を整えると我々が最後の出発組で小屋の主人に見送られた。コースタイムは 8 時間だが、14 時半のバスに間に合わせるにはギリギリの時間だ。コースはゆったりとした下りで楽そうだが、途中の鎖場になっている



る岩稜で一昨日に 66 歳の方が亡くなっているとのことだった。途中、種蒔山で地蔵山に向かうべきところを地蔵岳に向かうコースに行きそうになり、数十メートル進んだところで引き返す。三国小屋までは 50 分に 1 本の小休止というこまめな休憩を挟んで歩く。三国小屋を過ぎると山場の剣ヶ峰の岩稜にやってきた(写真)。コースの両側が崖になっており下に谷が切り込んでいるのでかなりの高度感がある。幸い、この日は晴天で暑くて恨めしくなるほど風がない。サプリーダの指示で伊藤はストックをしまい、20~30m の岩稜を 10 分程度で通った。この岩場をすぎると残りは下るのみなのだが、ここで伊藤が右

ひざをひねってしまい小休止を取る。残り時間を考えると急いだ方がいい。先頭が吉田さんに代わり、リーダに 12 時まで休憩なしで歩くと宣言されて、速いピッチで一気に下る。必死に歩いたおかげで上十五里に 11:35 に到着し、14:30 までにバス停に行けそうとメドが立ち安心する。結局 12:40 には沢(バス停まで平地を 50 分)に着くことができた。沢で顔を洗ったり、足を浸したり(頭を突っ込んだり、全身沢に漬かったり)して 20 分ほどリフレッシュする。残りの道でアブのような虫の大群に群がられて、非常に不快な思いをするがバス停に到着。バス停で 30 分以上も時間があつたので、日陰で休み無料の民族資料館に入ってみたりした。1 日 2 本しかないバスダイヤ表の前で記念撮影する(写



真)。以降、芦田リーダーの綿密な計画通りにバス・電車・レンタカーを乗り継いで 17 時頃にホテルに到着した。(伊藤記)

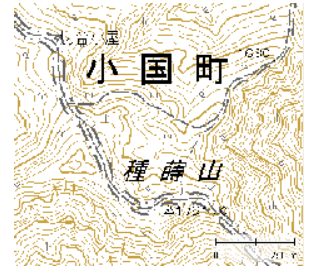
## 5 日目 (8/13 晴れ)

鶴ヶ城を観光、喜多方ラーメンを食した後、郡山駅まで移動、新幹線を乗り継ぎ、名古屋駅で解散。

## 所見

<ルート> 入山、下山は急登、一部ザレているほかは、全体的には道は明確で歩きやすい。ただ三国小屋から地蔵山に至る岩稜は天候状況によってはかなり危険だ。(芦田)

<行動> 行動時間が長くなったもののなんとかすべての目的地に到達できた。最後の下りではバスの発車時刻が迫り時間との戦いになったが、ペースを上げて 3 時間のコースを 2 時間に縮め、沢で水遊びをする時間さえつくる事ができた。なお、1 箇所ルート間違いがあった。切合小屋から南下、地蔵岳方面(1680 方面)への分かれ道を地蔵山方面の道(種蒔山の巻き道)と間違えて進み途中で引き返し約 10 分ロスした(図)。迷った原因はどちらも同じように東へ折れているのと、分岐であいま



いな記憶に頼り地図を出すのを怠ったこと。今後は地図をよく見るくせをつけ距離感を養っていく。(芦田)

<食糧> ご飯として無洗米を 9 合(1 合予備)持参した。ほかのものはすべてレトルト食。10 日の夕食時に丼ものに 3 合、雑炊用に 2 合炊いたが丼で食べ過ぎたか 11 日朝の雑炊は若干足りなかったように思う。今回はおかずのことを考えておらず、ご飯やめんメインのメニューになっていたが、山田さんが提供してくれた魚の甘露煮や本山小屋の主人がくれたジャガイモがおいしかった。行動食で炭水化物ばかり食べる傾向があるので、縦走の場合はとくに炭水化物以外のおかずがあるといいように思う。とくに甘露煮のような甘辛い濃い目の味のおかずはよいと思った。疲労回復にクエン酸がよいとのことなので、梅干やフルーツもあってうれしい。今回はコーヒーやお茶類、おつまみ系のものが足りなかったか(そのためにお酒も進まなかった?)と思うので、次回は増やしたい。(伊藤)

<気象> 幸い全日程晴天であり、特別な判断が必要な場面はなかった。「社会人の山岳部が天気図を書くのを見るのは 20 年ぶり」との本山小屋の管理人の談があったが、自信を持って進むために今後も続けたい。(芦田)

<装備> テントを張れないということだったが、小屋からあふれるときのことを考え、テントを持っていった。また、雪渓のある場所を通るということでザイルも用意した。テントもザイルも結局使わなかったが、最悪のことを想定して準備することが、「安心」という気持ちにもつながるので、装備については楽観的ではなく、慎重に考えて準備することが大切だと思った。(吉田)

## 感想

- 平均年齢 33 歳の経験の浅いメンバーによる、歩行時間の長い意欲的なルートだったが、道中だれも弱音を吐くことなく、新人の体力・精神力に感心した。天気図を書いたり、地図を読む経験を積んだりして、技術も高めていく。(芦田)
- 今回の夏合宿は東北の山ということで東北の山特有の景色を堪能することができた。特に、雪渓、高山植物のお花畑、とてもおいしいわき水はいままでの山行には無い素晴らしいものだった。また、コースも変化に富んでいて、木の根をつかみながら登る急登、最終日の下りの岩稜地帯の歩行は、自分も含めた合宿参加者全員、良い歩行訓練になった。また、機会があれば、他の東北の山にも行ってみたい。(山田)
- 初めての合宿参加で体力的についていけるか心配だったが、自分なりに元気に完歩できたことで自信になった。以前から右ひざの負傷が多いことが課題と認識していたが、ストックやサポータの補助を積極的に使えばかなりリスクが減らせることがわかった。炊飯の方法、欲しくなる食糧などがわかったので今後の山行にい

かしたい。(伊藤)

- 今回の飯豊連峰は 2000m 級の山々で当初はあまりきつくないと予想していたが、実際に登ると急登が多くまた、ゴロゴロした石がたくさん見られ足場が悪い箇所があり、かなり体力的にきつかったが、無事に最後まで歩く事ができた。しかし、今回の夏合宿ではザックが重く、肩が痛かったので上半身の筋トレをして筋肉を付けないといけないと思った。(藤田)
- 今回の夏山合宿の大きな成果は、地図とコンパスが使えるようになったことだ。地図の等高線は、今までは指の指紋にしか見えなかったが、尾根や谷が見えるようになった。また、現在地の見当もつくようになった。コンパスは、持っていたものの今までは使うことがなかったが、今回は地図と併用して、進む方向が合っているか確認しながら進んだ。地図とコンパスを使うことにより、これらの重要性が認識できた。(吉田)

## 会計報告

収入の部	(千円)	支出の部	(千円)
会費 7万 x 5人	350	公共交通費	204
町田さんからの寄付金	5	食費	27
金子さんからの寄付金	5	宿泊費	116
亀山さんからの寄付金	5	おみやげ代	5
長島さんからの寄付金	5	レンタカー関連費用	27
計	370	計	370